

保育の質の向上研修ニュース

発行日 平成26年5月30日
 発行者 舞鶴市（子ども未来室）

平成25年度に引き続き、保育の質を高めていくための研修を実施します！

平成26年度 プロジェクト型保育推進事業 保育の質の向上研修

平成25年度より『プロジェクト型保育推進事業～保育の質の向上と可視化～子ども主体の保育・自己肯定感を育む』と題し、舞鶴市内の16保育園（所）と共に研修に取り組んできました。25年度は、園ごとに「ふるさと保育カリキュラム・記録」「プロジェクト型保育」「保小連携・記録」の3つのコースに分かれ学ぶことができました。

それぞれが学んできた成果を平成26年3月8日の報告会の中で共有することもでき、それぞれ手法は違っても、指導していただいた先生から学んだことは共通するものが多くありました。のべ人数ではありますが、年間約900名の参加があり、舞鶴市内の保育園（所）の皆さんの『保育の質の向上』に対する意識の高さ、熱心さをひしひしと感じています。

今年度も昨年度の学びを引き継ぎ、「プロジェクト型保育」「可視化・記録」「保小連携」の3つのキーワードのもと、研修事業を実施することとなりました。

研修の方法としては、昨年度の報告会のアンケート等を踏まえ、コースに分かれるのではなく、共に学ぶ機会をより多く持てるようにと計画しています。また、直接、保育園（所）に入っていくことができ、より実践力を高めることにもつながることが昨年の成果からも伺えましたので、公開保育を中心にしながら、可視化・記録（ドキュメンテーション）について学ぶ研修やプロジェクト型保育につながる研修を実施したいと考えています。保小連携についても引き続き、小学校との連携をすすめながら、研修も実施する予定です。

保育の質の向上研修 3つのキーワード

「プロジェクト型保育」

子どもを主体とした遊びや生活、身近な自然から子どもの興味や関心を見つけ出し、トピックスとして取り上げ、調べたり、深めたり、協同的に学ぶ、子どもと保育士の相互作用を重視した設定保育とも自由保育とも違う新しい形の保育。

「可視化・記録」…エピソード記録、ドキュメンテーション

保育園での遊びを通じて、子どもの育ちや学びが見える記録。

保護者にもわかりやすい可視化の手法。

保育の振り返りや見直しにつながる実践記録や保育計画。

「保小連携」

保小の連携を深めると共に、子どもの育ちや学びを小学校へつなげていく。

互いの保育・教育を知る。 連携活動を通じて保育を見直す。

参加保育園 15園

- | | |
|---------|---------|
| 永福保育園 | やまもも保育園 |
| 岡田保育園 | ルンビニ保育園 |
| さくら保育園 | 中保育所 |
| 平保育園 | 東保育所 |
| タンポポハウス | 東乳児保育所 |
| なかつじ保育園 | 南乳児保育所 |
| 東山保育園 | 西乳児保育所 |
| 八雲保育園 | |

この研修事業の運営等については
舞鶴保育園長会に委託しています。

年間 研修計画

研修期日	研修名	内容	講師	会場
5月10日(土)	講演 ※保育士会共催	講演「子ども主体の保育～プロジェクト型保育・ドキュメンテーション」	神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生	中総合会館 4階 コミュニティホール
6月19日(木)	研修 ①	午前:公開保育 午後:ドキュメンテーション	神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生	公開:中保育所 研修:中総合会館4階 研修室
8月1日(金)	参考※研究発表会 (各園で申し込み)	神戸大学附属幼稚園 研究発表会参加		神戸大学附属幼稚園
8月4日(月)	研修 ② ※小学校教育研究会 生活科部共催	保小連携	鳴門教育大学大学院 教授 木下光二先生	未定
9月29日(月)午後 30日(火)午前	研修 ③	29日:ドキュメンテーション プロジェクト型保育 30日:公開保育	神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生	29日:市役所6階 大会議室 30日:東山保育園
10月23日(木)	研修 ④	午前:公開保育 午後:ドキュメンテーション プロジェクト型保育	神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生	公開:ルンビニ保育園 研修:市役所5階 中会議室
11月13日(木)	研修 ⑤	午前:公開保育 午後:ドキュメンテーション プロジェクト型保育	神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生	公開:未定 研修:市役所5階 中会議室
月 日()	研修 ⑥	可視化・記録～記録を見ながらカンファレンス～	大阪総合保育大学大学院 教授 大方美香先生	未定
12月11日(木)	研修 ⑦	午前:公開保育 午後:ドキュメンテーション プロジェクト型保育	神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生	公開:未定 研修:市役所6階 大会議室
2月21日(土)	報告会	午後:園…報告 講師…講評、講演	神戸大学大学院 准教授 北野幸子先生	未定

5月10日 舞鶴保育士会との共催で研修会を実施しました。

5月10日(土)15時～中総合会館コミュニティホールにおいて舞鶴保育士会・プロジェクト型保育推進事業～保育の質の向上研修～の共催で研修会を実施しました。講師には、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生をお迎えし、「子ども主体の保育～プロジェクト型保育・ドキュメンテーション」と題してご講演をいただきました。

200名以上の保育関係者の参加があり、大変熱気のある研修会となりました。3月に行われました平成25年度の報告会でもお話しいただいた内容を含め、より詳しく、よりわかりやすくお話しいただき、今年度の保育の質の向上研修のスタートを参加者の皆さんといっしょにきることができました。

今年度も、この研修事業が実り多い、学び多い場となりますよう、保育にかかわる皆様といっしょにつくっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

現在は知識基盤社会であり、情報はいくらかでも簡単に手に入る時代である。得た情報をどう使い、自分の考えをどう伝えるか主体的に考え判断し、臨機応変に应答的に考えふるまう必要がある。自立して生活していくための基礎を乳幼児期に身につけることが大切。

<なぜ、子ども主体の保育が必要なのか>

◎現在は知識基盤社会であり、情報はいくらかでも簡単に手に入る時代である。暗記や与えられたものだけでは生きていく力は育たない。得た情報をどう使い、自分の考えをどう伝えるか主体的に考え判断し、臨機応変に应答的に考えふるまう必要がある。自立して生活していくための基礎を乳幼児期に身につけることが大切。

◎乳幼児期は‘おもしろそう’‘ふしぎだな’‘やってみたい’という気持ちにかりたてられ、自然、環境、友だちとの相互作用の中で、知らないうちに学んでいる。幼児期の学びは、目的思考型ではない無自覚の学びである。

◎子どもが無自覚であるのと、保育士が無自覚であるのは別であり、保育所保育指針

や幼稚園教育要領にあるように、保育士にはねらいがあり、それに基づいて活動を想定し、それによって育てたい力・育てたい子ども像がある。

◎小学校のように同じ時間に同じ内容、同じ教材で学ぶのではなく、子どもの主体的な遊びの中で、保育士が自覚的に援助、環境構成、声かけをして個々の発達に合ったねらいを達成していくことが大切である。

◎子ども主体の保育＝環境を通じた保育ともいえ、保育士が指導・命令するのではなく、環境が情報を持ち、働きかけ、発信をしている。(アフォーダンス理論)

◎保育の前提として、乳幼児期は子どもの心、心情の影響を受けやすいことを知っておくことが大事。子どもが安心して過ごせる居場所がある、信頼できる先生がいるこ

とで、好奇心・探究心・あこがれの気持ちが育ち、自らやってみようとする。

◎子どもの育ちの見通しとして、今、できなくてもよい。発達に適した遊びを経験することで次にこうなることを見通しておく。

◎できないことばかりを指摘されると自尊心と自己効力感を損なう。自分への知性への信頼(やればできるという気持ち)を損なってしまう。できる・できないといった結果ばかりにとらわれるのではなく、やりたい・知りたい・やってみたい気持ちを育むことが大事。

～自分の保育を振り返る～子どもの興味・関心が保育のスタートであり、起点!

子どもの姿を起点とした計画が立てられているか?保育士のこんな力を育てたいというねらいを達成するための環境ができていますか?子どもの主体性を大切にしていねらいが達成できたか?

<遊びを通じた学びのプロセス>

◎子どもが興味関心を持つ。ここが保育のスタート、起点!

◎5感を使って遊ぶ中で「なんで?」「知りたい」「やってみたい」の気持ちが芽生え、さわる→親しむ→ふれあう→調べる→育てる→わかった!の積み重ねが自分で調べ、自分でやろうという自己教育していく力につながっていく。

◎わかった!できた!自分はすごい!誰かに知ってもらいたい!ポジティブな教育力をつけてやりたい。

◎人は知れば知るほど比べたくなり、比べると分離して整理したくなる。遊び込んで調べ、身につく自分のものとなったことは表現したくなる。そこから人に伝え議論し、考えあう、協同的な学びへと広がる。

◎表現する技術だけ伝えても伝えたい気持ちがなければ学びにはつながらない。

◎聴きたい気持ち、伝えたい気持ちがあつてこそ、じっと座って話が聞ける。気持ちの育ちが学習規律の形成の基礎となる。

◎保育士が前に立ち、一斉に指示命令するより、輪になったり、自由に発言できたりする空間(インフォーマル)の方が子どもの気持ちが表出しやすい。

◎よって、形式的な形態よりもインフォーマルな形態で座る方が子どもの様子を把握しやすく、援助に資する情報を得やすい。

<ドキュメンテーションで伝えたいこと>

◎遊び≠学びであるということ。できた、できないというような結果ではなく、やりたい、やってみたい、人とかかわりたい!という気持ちが起点になって成果が表れるというプロセスが大切。遊びの中でどんな発見、工夫、かわりがあり、そこで何が育ったかということ伝えることがドキュメンテーションに望まれる。

◎保育士はただ遊ばせているのではなく、子どもたちの学びのため、環境を通じた保育を展開しており、個々の発達、特徴、興味関心に合わせて働きかけをすることで、子どもが大きく育つ…ということを発信することが大切である。子どものためにこんなふうに工夫し、やっていますよ!と保育の重要性を発信して欲しい。

<プロジェクト型保育とは>

◎あるトピックについて深めていくことであり、保育士の育てたい子ども像のもと、好きな遊び、環境設定、問いかけを中心とした実践である。個々の子どもの選択があり、それぞれへのねらいが設けられ、その達成を目指して同時進行で行われる保育である。

◎保育は、シナリオ通りにすすめるよりも、子どもの状況に応じて、子どものつぶやきや気付きを取り上げ、それに基づき臨機応変に、より子どもの主体性を尊重した

保育へ変えていくことが望まれる。

◎プロジェクトアプローチとは、あるテーマについて子どもが遊びを深めていく中で、保育士は環境となりモデルとなり、子どもの興味関心をとらえ、子どもの好奇心や探究心をさらに深めるような情報を提供し、意識をかりたてる発信をしていき、多層的な育ちを促す総合的な保育方法である。

◎共に学ぶ楽しさを経験し、知ることが子どもに必要である。一人の気付きを他児の気付きにつなげること、遊びの中で他の子の話題を出すなど、子どもと子どもをつなぎ、環境を結び、保育士が保育のアクセントとなり遊びを展開し、主体的な遊びの中で子どもたちが無意識に学んでいく。

<自分の保育を振り返る>

◎保育のねらいを立てるときに子どもの姿が浮かんでいるか。

◎子どもの姿を起点として計画が立てられているか。

◎こんな力をつけたいというねらいを達成するための環境ができていますか。

◎子どもの主体性を大切にしていねらいが達成できたか。

◎自分の保育をふりかえり、自分に宿題をだし、もつこうしたらよかった、こうしたらどうなっていたかな…と評価する。